

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

動噴「新型きりひめ
PEACH」を発売
(耕種資材部)

6-7面

ニッポンエールプロジェクト
協議会第3弾「東北産地応援」
(営業開発部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



「JA全農契約栽培米多収コンテスト」表彰式を開催

会長賞に檜田幸吉さん、理事長賞最優秀賞には奥谷光男さん

米穀部



JA全農契約栽培米多収コンテストの受賞者ら

全農は、稲作生産者の経営安定に向けて、安定取引が見込める業務用実需者との間で多収品種を主とした契約栽培に取り組んでいます。コンテストは、契約栽培に取り組む生産者の栽培技術・生産意欲向上を目的に始まり、今回で6回目となります。

全農会長賞には檜田さん(品種「とよめき」、10アール(1キ)、全農理事長賞最優秀賞にはJA水戸(茨城

全農は3月13日、東京・大手町で「令和5年度JA全農契約栽培米多収コンテスト」の表彰式を行い、全国農業協同組合連合会会長賞を受賞した檜田幸吉さん(兵庫県JA兵庫六甲)ほか生産者6人を表彰しました。

令和5年度JA全農契約栽培米多収コンテストの受賞者

区分	受賞者	産地	JA名	品種	10a当たり収量	地域10aとの差
1.全国農業協同組合連合会 会長賞(単位収量の部)						
	檜田 幸吉	兵庫	兵庫六甲	とよめき	941kg	460kg
2.全国農業協同組合連合会 理事長賞(地域の平均10aからの増収の部)						
最優秀賞	奥谷 光男	茨城	水戸	とよめき	894kg	379kg
優秀賞	安 邦弘	茨城	水戸	とよめき	873kg	365kg
優秀賞	上田 智士	茨城	水戸	とよめき	837kg	329kg
優秀賞	福田 寿徳	三重	津安芸	ほしじるし	791kg	311kg
優秀賞	中村 幸雄	茨城	水戸	とよめき	816kg	308kg
優秀賞	原田 裕	埼玉	埼玉中央	ほしじるし	748kg	291kg

県の奥谷光男さん(品種「とよめき」、10アール894キ)が選ばれました。

檜田さんは「夏季の水管理を徹底して行い、地温・根温の低下に努めたことが高収量につながった。また、ケイ酸を補填した土づくりも効果があった。今後多収を目指しながら、契約栽培に取り組みたい」と喜びと今後の意欲を語りました。

JA Zen-noh Weekly

ニュース&トピックス

動噴「新型きりひめPEACH」を発売

「使いやすい・オシャレ・お得」を追求

耕種資材部



女性で構成されたプロジェクトチームで検討会を実施し開発

従来機は発売されて以来「きりひめPEACH」の愛称で親しまれてきました。新型の開発にあたり、全農の女性職員と同社の女性社員で構成されたプロジェクトチームを発足。製品の仕様について意見交換しながら開発を進めました。

リニユーアルのポイント

は、バッテリーの無駄な消費を防ぐためにワンタッチ式の高性能クリップバルブ(握ると噴霧、離すとモーターが停止)を新規採用したほか、背負いバンドに肉厚でクッション性の高い素材を採用するなど、使いやすさを追求した点です。ボディカラーは鮮やかなパールとし、デザインも一新しました。

全農と(株)丸山製作所は、3月に新型JAオリジナルバッテリー動噴LSB110Li-JA「新型きりひめPEACH」を発売しました。2017年1月に「女性が使いたくなるバッテリー動噴」をコンセプトに発売した従来機LSB100Li-JAのフルリニユーアルモデルです。

LSB110Li-JA「新型きりひめPEACH」





KOMPEITOが能登半島地震支援の寄付金贈呈

「オフィスで野菜」の利用で277万円集める

石川県本部 広報・調査部

石川県本部は3月25日、「OFFICE DE YASAI」(オフィスで野菜)を展開する株KOMPEITOから能登半島地震支援を目的とした寄付金の贈呈を受けました。

今回、石川県本部に贈られた寄付金は、KOMPEITO社独自の決済アプリ「YASAI PAY」での決済につき10円が積み上げられたもので、総額277万4860円です。

東京・大手町のJAビルで行われた贈呈式では、KOMPEITOの好岡利香子取締役COOから「わ

れわれにできることがないかを話し合った結果、まずは寄付を実施しました。農業の復興に少しでも貢献できるように、われわれの思いを全農に託します。一日も早い復興を願っています」とのコメントとともに、石川県本部の末政満県本部長へ目録が手渡されました。



KOMPEITOの好岡取締役COO(右)から石川県本部の末政県本部長へ目録を贈呈

島地震からの農業の復興・復旧支援に大切に使用させていただく。震災から3カ月近くたつたが、まだ先は見えない状況。今回のご支援を励みに、全農グループ総力を挙げて農業、そして営農の再開に向け全力で取り組み」と謝辞を述べました。



「TAC担い手訪問ハンドブック」発行

出向く活動担当者のマニュアル、8年ぶりにリニューアル

耕種総合対策部

全農は多様化・高度化する担い手ニーズへの対応にTAC(担い手に出向く担当者)の活動の強化が不可欠と考え、「TAC担い手訪問ハンドブック2024年版」を発行しました。

全農は、担い手に出向く活動の強化に向けた冊子である「TAC担い手訪問ハンドブック」を16年に発行し、研修や活動の補助資料として配布してきました。発行から8年が経過し、農業を取り巻く情勢やTACのあり方も大きく変容してき

たことを受け、近年の農業情勢やTACの活動に合わせる内容を全面リニューアルした2024年版を発行しました。冊子では現場で活躍するTACの方々の体験談を中心に、TAC活動に当たってのノウハウやポイントをまとめています。



8年ぶりにリニューアルした「TAC担い手訪問ハンドブック」の表紙と誌面

内容は、内容は配布については耕種総合対策部TAC・営農支援課(03-6271-8276)までお問い合わせください。

「エフピコフェア2024」に出展

全農グループ惣菜部会が青果物の原料活用を提案

営業開発部

全農と全農グループ会社10社で構成する「全農グループ惣菜部会」は4月10〜12日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催された「エフピコフェア2024」に出展しました。

フェアは、食品容器トレー大手の（株）エフピコが主催し、全国の小売・食品加工業向けに「商品開発」や「売場づくり」を提案する展示会で、3日間で約1万5000人が来場しました。

同部会は地産地消や6次産業化をテーマに、地域における青果物の中でも、埼玉県産の曲がりの強いキュウリや不ぞろいトマト、茨城県産の曲がり・傷のあるレンコンなど、傷物や不ぞろい品などにスポットを当て、惣菜向け原料としての活用を提案。多くの取引先に興味を持って



多くの人が足をとめた「全農グループ惣菜部会」のブース

ただき、商談にもつながりました。全農グループ惣菜部会では、今後も国産農畜産物を活用した惣菜提案を進めます。

日本一輪車協会主催の各種大会に協賛

開催県特産の「ニッポンエール」商品で選手を応援

広報・調査部

日本一輪車協会主催の2023年度各種大会

日程	大会名	会場
7月23日	全日本一輪車競技大会 (ペア・グループ演技部門)	高崎アリーナ (群馬県高崎市)
9月17日	第9回全国小学生一輪車大会 (ペア・グループ演技部門)	円谷幸吉メモリアルアリーナ (福島県須賀川市)
10月15日	全日本一輪車競技大会 (トラックレース部門)	愛鷹広域公園多目的競技場 (静岡県沼津市)
11月5日	全日本一輪車マラソン大会	大井川陸上競技場 (静岡県焼津市)
11月23日	全日本一輪車競技大会(ソロ演技部門)	静岡市北部体育館 (静岡県静岡市)
3月10日	ALL JAPAN Uni-dancing Competition	弘前市民会館 (青森県弘前市)

各種大会で、開催県産の特産品を使用した全農の商品ブランド「ニッポンエール」のグミやドライフルーツなどを提供し、選手たちを応援しました。一輪車の競技種目はトラックレース、マラソン、演技(ソロ・ペア・グループ)、舞台演技などの部門があり、どの種目もハイレベルなパフォーマンスで、会場を沸かせました。

全農は2023年度に開催された日本一輪車協会主催の各種大会へ協賛し、選手の皆さんを「ニッポンの食」で応援しました。

全農職員としての決意を新たに

令和6年度入会式 300人の仲間とともに

総務人事部

全農は4月1日、令和6年度新規採用職員の入会式を行いました。折原敬一経営管理委員会会長から新入職員一人一人に辞令書が手渡され、300人が全農職員としての第一歩を踏み出しました。

折原会長は「厳しさを増す農業情勢の中で、全農に寄せられる期待は大きい。皆さんには生産現場に寄り添い、組合員の目線を大切に、生産者・農業に貢献できる人材に大きく育っていただきたい」と激励のメッセージを贈りました。

また、新入職員を代表して山本和奏さん(広島県本部所属)と中村優斗さん(本所所属)が「全農職員として日本の農業と食の未来を担っているという自覚を常に持ち、誠心誠意業務に努めていく」と力強く決意表明しました。



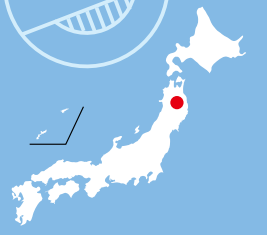
新入職員に辞令書を手渡す折原会長



決意表明を行う新入職員代表の山本さん(左)と中村さん

県本部 だより

岩手県本部



中山間地域の生産拡大へ「先進園芸実証農場」

低コスト・省力化のピーマン施設栽培モデルを構築

岩手県本部は、中山間地域での施設栽培による集約的高収益園芸品目の生産拡大を目的に、ピーマン実証施設「先進園芸実証農場」を新設しました。2024年3月5日に竣工式を行い、伊藤清孝JA岩手県五連会長をはじめ、照井富也県農政担当技監ら関係者約30人が出席しました。

先進園芸実証農場が 目指す方向

生産者の減少や拡大する耕作放棄地、昨今の気象状況などによる生産基盤の弱体化が危惧される中、同施設では次の三つの目標を掲げ、生産者の安定生産・安定収入と「純情産地いわて」の園芸生産拡大に取り組んでいきます。

- ①中山間地での施設栽培による園芸高収益栽培品目モデルの構築と、既存施設への普及を考慮した低コスト技術や省力化技術などの導入
- ②「みどりの食料システム戦略」に対応した農業施設の運営による生産量向上と持続性の両立
- ③園芸育苗センター、ういずOne展示圃場、先進園芸実証農場の3施設を一体化し、県本部園芸生産施設

の拠点化による育苗から生産までの野菜品目栽培技術の普及

最新システムを導入した 実証開始

実証農場では、県内初となる「ヤシ敷培地を使用したピーマンの養液隔離床栽培」と「排液リサイクルシステム」を導入しました。

養液隔離床栽培は、土壌伝染性の病害リスク回避と、場所を選ばない

生産が可能となります。また、従来圃場外に捨てていた植物に吸収されなかつた養液を培養液として再利用することで約3割の肥料削減効果が期待できます。さらに、保温・遮光カーテン設備、環境制御システムなどの農業ICTの導入のほか、木質バイオマス暖房やヒートポンプを使用した中山間寒冷地域における加温効果の検証を行います。

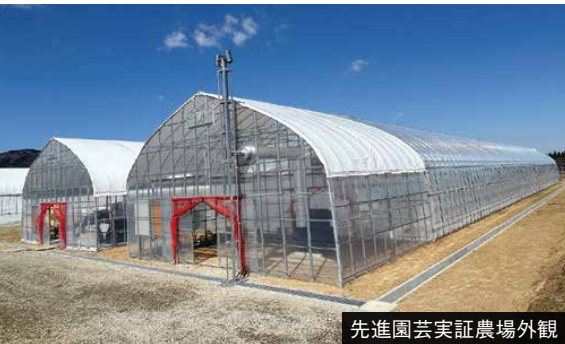
来年度にはワイヤー下り式収穫

ロボットを導入予定で、県内の労働力不足・人件費削減対策として実証試験を行います。

実証農場では3月下旬にピーマンの定植を行い、4月下旬から12月にかけて収穫を実施。ハウス2棟で県平均の2倍にあたる10㏎当たり収量20㏎を目指します。



関係者らとともに定植式も開催



先進園芸実証農場外観



竣工式での伊藤JA岩手県五連会長のあいさつ



イベントでは東北6県のご当地キャラクターが集合

ニッポンエール
プロジェクト協議会

第3弾「東北産地応援」

〜東北の力で
日本中を笑顔に〜

ニッポンエールプロジェクト第3弾「東北産地応援」商品

伊藤園



山形県産さくらんぼ
(佐藤錦)



抹茶入りつや姫
玄米茶 (パウダーイン)



お〜いお茶
玄米茶



さらさらとけるお〜い
お茶抹茶入り玄米茶

山崎製パン



もちもちとしたコッペパン
(蔵王クリームチーズ)



もちもちとしたコッペパン
(北限の桃)



りんごのカヌレ



りんごシベリア



ガーリックラスク

「ニッポンエールプロジェクト」は、全農とメーカー、販売先が協力して国産農畜産物のPRやキャンペーンを展開し、商品を通じて産地を応援する活動です。

同協議会は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興、フードロスの削減などに関わる企業が同じテーマで商品を開発・販売し、共同でPRやキャンペーンを展開することで産地を応援しています。

第3弾は、テーマを「東北産地応援」とし、協議会の参画メーカーに加え、東北6県の全農県本部をはじめ、地元のメーカー、販売先と連携しています。

各メーカーとともに東北産の品目を使用した商品を共同開発し、地元の販売先と協力しながら販売・PRすることで、東北の生産者が丹精込めて生産している農畜産物について、商品を通じて多く

全農は「ニッポンエールプロジェクト協議会」の第3弾のテーマを「東北産地応援〜東北の力で日本中を笑顔に〜」とし、協議会の参画メーカーとともに商品を開発・販売しています。今回、プロジェクトに参画するメーカーは(株)伊藤園、久米仙酒造(株)、(株)栗山米菓、(株)ピクルスコーポレーション、(株)不二家、山崎製パン(株)、全国農協食品(株)、協同乳業(株)、(株)エーデルワイン、山形食品(株)の10社です。

【営業開発部】

ニッポンエールプロジェクト協議会メンバーで
知事・副知事を訪問し、
各県産原料を使用した商品をPR



青森県 宮下宗一郎知事(左から4人目)を訪問



山形県 平山雅之副知事(左から6人目)を訪問



福島県 内堀雅雄知事(左から6人目)を訪問



イトーヨーカドー北砂店に設置されたニッポンエールプロジェクトの特設売り場

ピクルスコーポレーション



青森県産
ごんぼのキムチ

不二家



パレットイエ
(白桃タルト)



パレットイエ
(メロンタルト)

協同乳業



東北果実
フルーツラテ

エーデルワイン



月のセレナーデ
ニッポンエール赤

山形食品



山形尾花沢
スイカサイダー

全国農協食品



福島県産
あかつき桃ゼリー

久米仙酒造



青森県産ふじ&
世界-1を使用した
Wりんごサワーの素

栗山米菓



ちっちゃなばかうけ
だだちゃ豆味

「東北産地応援」
特設ホームページ

https://www.zennoh.or.jp/nippon-yell/project/tohoku_ouen/



の消費者に知っていただく機会を創出しています。

今回は、青森県の(株)工藤パンや秋田県の秋田いななく米菓(株)、福島県の酪王協同乳業(株)などの地元メーカーとも連携しています。

さらに、全農は各メーカーとともに青森県、山形県、福島県の知事および副知事を訪問し、本プロジェクトにおいて共同開発した商品の紹介を行いました。

また、4月13、14日はイトーヨーカドーアリオ北砂店で、販売促進イベント「ニッポンエールまつり」を開催しました。

13日には、全農所属で全農オフィシャルアンバサダーの石川佳純さんをお迎えしてトークショーを実施し、14日は東北6県のご当地キャラクターが一堂に会して同店の売り場を大いに盛り上げました。

全農は、今後も国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、「ニッポンエールプロジェクト」の主旨に賛同いただける皆さまとともに、この取り組みを全国の産地・品目に展開していきます。

いちごトレーニングセンターが入所式

第1期研修生3人の新規就農をサポート



宮城県本部は4月1日、いちごトレーニングセンターの令和6年度入所式を開催しました。研修生3人は第1期生として14カ月間、新規就農を目指して生産技術や経営管理について学びます。【宮城県本部】

「仙台いちご」の生産基盤を拡大するため、山元町、JAみやぎ亙理、(株)やまもとファームみらい野、宮城県などの関係機関と連携し、「いちごトレーニングセンター」を設置しました。今回入所した研修生3人は全員農業未経験ですが、新規就農への強い気持ちで県内外から研修地へ移住。研修生は入所式で関係機関から激励を受け、それぞれの思いを発表しました。

宮城県本部は、関係機関と連携しながら研修生3人の新規就農に向けてサポートしていきます。来年度の同センター研修生も今年1月から随時募集を行っています。



第1期研修生を迎えたいちごトレーニングセンターの入所式

優勝選手に三重県産「コシヒカリ」贈る



ゴルフツアー開幕戦「東建ホームメイトカップ」で副賞提供

三重県本部は3月31日に開催されたJAPANゴルフツアー開幕戦「東建ホームメイトカップ2024」で優勝した金谷拓実選手に、副賞として三重県産「コシヒカリ」600kgを贈呈しました。【三重県本部】

今大会は、トッププロら132選手が出場し、3月28~31日に桑名市多度町の東建多度カントリークラブ・名古屋で予選・決勝ラウンドが行われました。

大会最終日に行われた表彰式で、見事優勝に輝いた金谷選手に三重県本部の谷口俊二運営委員会会長が目録に代えて米俵を手渡しました。

県本部の県産米贈呈は18回目。全国から注目される大会で、会場やメディアを通じて県産米を広くPRし、認知度向上と消費拡大につなげていきたいと考えています。



金谷選手(右)に米俵を手渡す谷口会長



会場に設置された副賞看板

JA全農の産地直送通販サイト



JA熊本うきっ子ショップ

「ばってんなす」はJA熊本うきが開発したオリジナル品種のナスです。小ぶりで身が引き締まった「ばってんなす」の糖度は約6度以上。水分が多くあくも少ないので、生のまま食べても特有の甘みを楽しむことができます。

サラダや天ぷら、焼きナス、カレー、煮物など一般的なナス料理はもちろん、味が染み込むのが早いので浅漬けや一夜漬けもお薦めです。

生産者が減農薬・減化学肥料に取り組み、湿度管理に気を使って大切に育てた「ばってんなす」をぜひご賞味ください。



JA熊本うきオリジナルの「ばってんなす」・約2kg(秀優S)……3180円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com